

保護者の皆様へ

開校
3年目

宇治支援学校が 大切にしたいこと

保護者のみなさん、地域みなさんに支えられ、宇治支援学校は開校から3年目を迎えています。

本校の教育目標は、「自律 ～生活に生きるすべを学ぶ～」です。これは子どもたちひとりひとりが、学校にいる間にせいっぱい自分でできることを増やし、卒業後にこの宇治市・城陽市で、必要な支援を受けながら自分の持てる力を100%発揮して、よりよく暮らし、働くための意欲や力を育むことを意味しています。

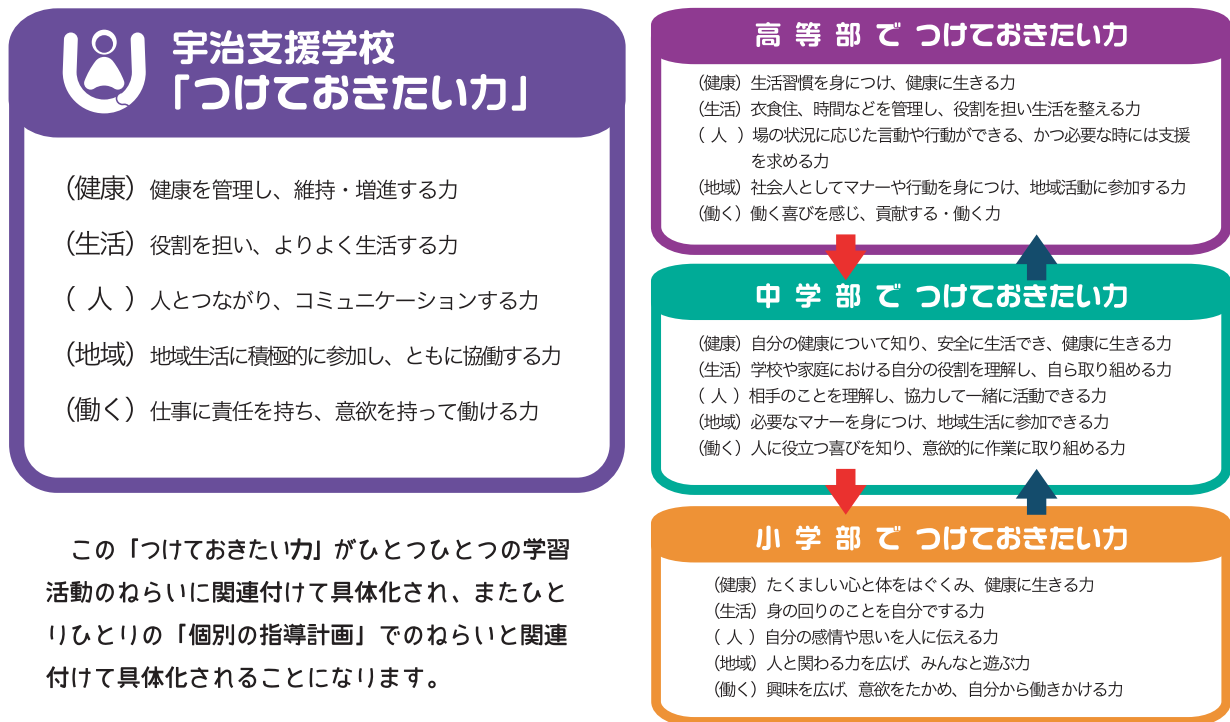
本校の教育理念「喜びはともにあること」のとおり、今後とも保護者のみなさんとともに、子どもたちの成長・発達を願って歩み続けたいと思います。



「つけておきたい力」について

子どもたちの将来の自立の姿はひとりひとりによってちがいます。本校では、小学部の子どもであっても、「どんな生活をして欲しい」「どんな仕事がしたい」といった具体的な将来の自立の姿を保護者のみなさんと一緒に考え、そのために今つけておきたい力を「個別の指導計画」の中に位置づけ、指導を行っています。そしてまた、個別懇談等の機会に保護者のみなさんといっしょに評価や次の目標を確認し、学校と保護者が同じ目線で子どもを育てていけるようにと考えています。

3年目を迎え、こうした考えを、「つけておきたい力」として、学校全体と学部ごとに整理をしました。



3年目の新たな取組 ①

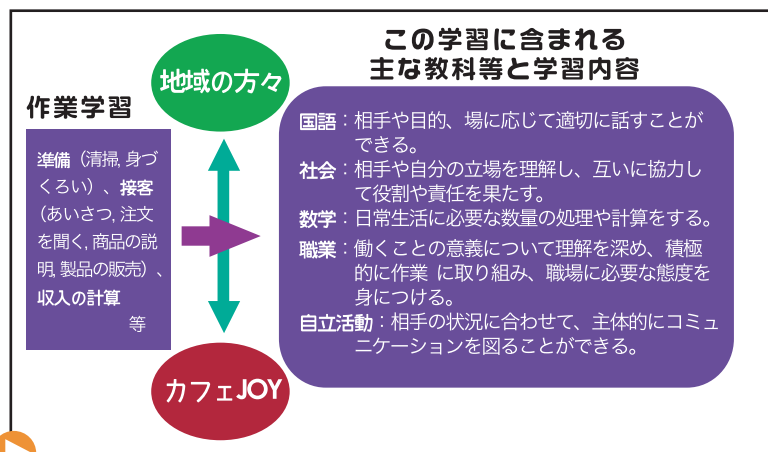
「基礎的な学習の時間」について

1 「各教科等を合わせた指導」を中心とした学習

本校では、一部の教科を除いて、各教科や自立活動等の学習を、合わせた形で指導しています。各学部における「日常生活の指導」、小学部では「遊びの指導」「生活単元学習」、中学部、高等部では「生活単元学習」「作業学習」が一週間の学習の中心になります。これらひとつひとつの学習活動(単元等)には、子どもたちひとりひとりに応じて、自立活動や各教科のねらいが含まれています。つまり「各教科等を合わせる」という指導のかたちをとって国語や算数(数学)といった各教科等の指導を行っているということです。

このように、いくつかの教科等を合わせ、より具体的で実際の学習に取り組むことから生活や働くことへの意欲、能力を身につけることをねらっています。

例えば、高等部「くらし職業コース」の生徒が取り組んでいる校内の喫茶「カフェJOY」での作業学習については、次のような考え方になります。

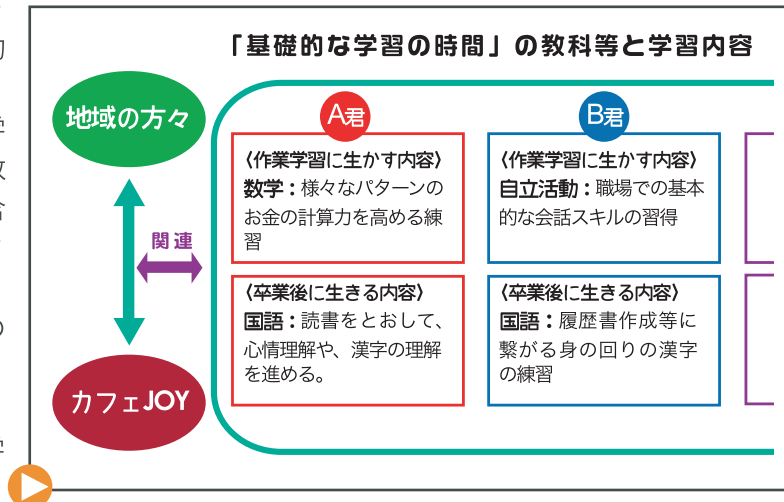


② 「基礎的な学習の時間」について

こうした「各教科等を合わせた指導」は、実際的な学習となります。この実際的な学習において、ひとりひとりが持てる力を発揮するために、また、その子どもが卒業後に生かせる基礎的な教科の力を身につけることができるように、今年度から知的障害の子どもたちの学級で、「基礎的な学習の時間」を一週間の学習の中に位置づけることにしました。

「基礎的な学習の時間」では、その時々に取り組んでいる「各教科等を合わせた指導」（「生活単元学習」・「作業学習」等）において、実際的な力をよりよく発揮するために必要な基礎的な内容や、将来に向けて継続して取り組む内容（国語のひらがなや漢字の学習、文章の読み書き、算数や数学の数や計算、時計、長さ、量等の学習も含まれます。）をひとりひとりに応じて学習しています。ですから、「基礎的な学習の時間」では、ひとりひとりの学習内容は異なってくることになります。

例えば、先ほどの高等部の「作業学習」では次のようになります。



保護者のみなさんからは、「もっと教科の力をつけることを大事にして欲しい。」と御意見をいただきました。この「基礎的な学習の時間」では、上の図のように、ひとりひとりに応じて、国語、算数（数学）といった各教科の内容や自立活動の内容を学習することになります（学習は、学級ごとに行い、全てが個別指導ではなく、課題を組み合わせて指導します）。

こうした基礎的な力をつける時間と実際的な力をつける時間とを相互に関連づけた教育課程の工夫によって、全ての子どもたちが、地域との学習の中で自信を深め、より一層「生活に生きる力」を身に付けることを願っています。

3年目の新たな取組 ②

自立活動「時間における指導」について

肢体不自由のある子どもたちについては、自立活動の「健康の保持」「身体の動き」に関わる指導が子どもたちの生命や生活を豊かにするという観点からとても大切であると考え、初年度から校内の理学療法士等の専門家と連携して「からだプログラム」を作成し、ひとりひとりの課題や指導内容を明らかにしながら「各教科等を合わせた指導」（「からだの時間」）の中で指導するとともに、学校の教育活動全体を通じて指導してきました。

今年度は、さらに、次のような改善を進めてきています。

① 自立活動「時間における指導」を時間割の中に位置づける

肢体不自由のある子どもたちの学級では、「健康の保持」「身体の動き」に関わる指導の時間を、取組の目的や視点がわかりやすくなるように、これまでの「各教科等を合わせた指導」から「自立活動」に変更しました。担任が、理学療法士等のアドバイスを得ながら指導を進め、教育活動全体を通じて指導することには変わりはありません。

② 「からだプログラム」の見直しを進める

これまでの「からだプログラム」は、指導の具体的な流れ・手順を示したものでしたが、今年度の後期からは、評価欄等を加え「個別の指導計画」の別表とします。これによって、「自立活動」の指導内容と他の「各教科等を合わせた指導」のつながりがわかりやすくなり、「自立活動」の指導でつけてきた力が、他の授業、そして家庭生活、地域生活へと広がっていくことをねらっています。

よりよい授業を目指して

宇治支援学校は、まだまだ発展中の学校です。新しい学校ならではの考え方や取組もたくさんありますが、それら全体に通じているのは、卒業後に、子どもたちひとりひとりがこの宇治・城陽の地域で、自分の持てる力を、支援を受けながら100%発揮して、よりよく暮らしてほしい、働いて欲しいという思いです。

その思いを実現するためには、授業をよりよくしていくことが全てです。本校は、この課題に教職員全員で取り組むために、今年度、文部科学省事業「特別支援教育実践研究充実事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」に応募し、幸いなことに採択していただくことができました。

本校が取り組む研究テーマは、「地域学習の試行による、知的障害のある児童生徒の自立と社会参加を実現する教育課程作り」です。各学部を中心にして、子どもたちに地域社会で生活し、働く力を育むための授業研究を進め、学校公開を節目として、学校評議員のみなさんに評価をしていただいたり、研究協力をお願いしている元愛媛大学教育学部附属特別支援学校校長の上岡一世先生にご指導をいただいたりしながら、現在、実践研究活動を進めつつあります。

今年度のまとめとしては、平成26年2月14日（金）の学校公開を「つながる授業報告会」とし、保護者のみなさん、地域のみなさんとともに子どもたちの姿をとおして、本校の教育の到達点を共有したいと思っています。当日は、特別ダイヤ（13時半下校）としますが、できれば午後からも保護者のみなさんにもご参加いただきたいと思います。

詳細は、後日、ご案内いたします。

開校3年目の宇治支援学校をどうぞよろしくをお願いします。

